

H29 地方創生推進交付金 効果検証シート

I. 推進交付金事業の振り返り

A. 基礎情報

1. 本事業の事業名称、実績額、単独事業と広域事業の別、事業実施計画の申請時点のテーマをお聞かせください。【全員】

事業名称	平成29年度 実績額 [単位:円]	単独事業と広域事業の別	事業実施計画(申請)段階のテーマ	事業タイプ	事業開始年度	事業実施期間
トカイナカン (都会×田舎 = 河南町) 定住 促進プロジェクト	総額 ¥47,085,574 うち国費 ¥21,316,862 うち県費 ¥25,768,712	市単	【地方への人の流れ】人材分野	横展開タイプ	H28年度	3年

注) 推進交付金交付要綱 別紙様式Ⅱ実績報告書で報告した金額 (円単位) を記載。↑

注) 単独事業と広域事業の別、事業タイプは自動で表示 (記載不要)。

1-1. 推進交付金の対象経費の支出内訳について、貴団体が支払った相手先の業種別 (①~⑩) にお聞かせください。【全員】

平成29年度の事業の 支出の内訳 [単位:千円]										推進交付金 交付対象経費の 支出額(合計)	
①農林水産	②建設	③製造	④情報通信	⑤運輸・郵便	⑥商業 (卸・小売)	⑦金融・保険	⑧不動産・ 物品賃貸	⑨サービス	⑩その他	①~⑩の合計	
7,196	1,516			25,664	2,416			9,797		46,589	47,086

注) 支払い相手先業種別の内訳は、概数で結構です。(合計が、最右欄の推進交付金交付対象経費の支出額合計に概ね一致しているかご確認ください。)

注) 支払い毎に、支払相手が高する業種①~⑩欄に当該支払額を加算してください。

注) ある支払い先が①~⑩のどの産業分類に該当するか判断することが難しい場合には、「別紙」設問1 (産業分類) シートを参照し、代表的な産業分類に計上ください。

B. KPIの設定・成果

○本事業における重要業績評価指標 (KPI) の設定、及び成果の確認 【全員】

2. 本事業における重要業績評価指標 (KPI) の名称、意味付け、当初値・目標値・実績値等について、お聞かせください。

ア. 本事業における 重要業績評価指標 (KPI) の名称		KPI1	KPI2	KPI3	KPI4	KPI5
		道の駅かなんの利用者数 (人)	休日の滞在人口 (人)	人口社会増減数 (人)		
イ. KPIの分類 ※右記の凡例より選択ください。	イ. KPIの分類	③交付金事業のアウトカム <凡例: 選択肢> 注) 下記①~④で想定するKPIの具体イメージについては、「別紙」設問2 (KPIの意味付け・分類) シートを参照ください。 ① インプット 交付金事業に投入される資源 (モノ・モナカ・時間) ② アウトプット 交付金事業による活動量 (仕事の量・頻度・投下時間) ③ 交付金事業のアウトカム 交付金事業から直接的にもたらされる成果・効果 ④ 総合的なアウトカム 様々な事業・施策・政策の総体によって得られる成果・効果	④総合的なアウトカム	④総合的なアウトカム		
	ウ. KPIの対象	②貴地方公共団体単独 として目指す水準	②貴地方公共団体単独 として目指す水準	②貴地方公共団体単独 として目指す水準		
		<凡例: 選択肢> ① 連携地方公共団体の総体 ② 貴地方公共団体単独				
エ. KPIの 当初値	エ. 事業実施計画の 申請時点	当初値 [単位] 303,944 人 計測年月 平成 28 年 3 月	当初値 [単位] 11,658 人 計測年月 平成 27 年 3 月	当初値 [単位] -73 人 計測年月 平成 28 年 1 月	当初値 [単位]	当初値 [単位]
	エ. 平成28年度の 事業終了時点	当初値 [単位] - 人	当初値 [単位] - 人	当初値 [単位] - 人	当初値 [単位]	当初値 [単位]
カ. 事業実施 計画の 申請時点 での、 KPIの 目標値設定	カ. (継続事業のみ) 平成28年度単体 の目標値 (増分)	目標値 (増分) [単位] 10,000 人	目標値 (増分) [単位] 92 人	目標値 (増分) [単位] 10 人	目標値 (増分) [単位]	目標値 (増分) [単位]
	キ. 平成29年度単体 の目標値 (増分)	目標値 (増分) [単位] 13,500 人	目標値 (増分) [単位] 250 人	目標値 (増分) [単位] 23 人	目標値 (増分) [単位]	目標値 (増分) [単位]
	ク. 上記カとキの累計 (自動表示)	目標値 (増分) [単位] 23500 人	目標値 (増分) [単位] 342 人	目標値 (増分) [単位] 33 人	目標値 (増分) [単位]	目標値 (増分) [単位]
	ケ. トータル事業 終了時点	目標値 (増分) [単位] 39,500 人 目標年月 平成 31 年 3 月	目標値 (増分) [単位] 742 人 目標年月 平成 31 年 3 月	目標値 (増分) [単位] 67 人 目標年月 平成 31 年 3 月	目標値 (増分) [単位]	目標値 (増分) [単位]
コ. 備考欄	目標値や目標年月を、半角数字で記入することが出来ない、その他上表に記載困難な場合には、以下備考欄をご活用ください。					
カ. 事業実施 計画の 申請時点 での、 KPIの 実績値	カ. (継続事業のみ) 平成28年度の 事業実施による 実績値	実績値 (増分) [単位] -12,331 人	実績値 (増分) [単位] 93 人	実績値 (増分) [単位] 89 人	実績値 (増分) [単位]	実績値 (増分) [単位]
	キ. 平成29年度の 事業実施による実績値	実績値 (増分) [単位] -15,548 人 計測年月 平成 30 年 3 月 目標値に対する達成度合い ## % ④目標値の達成 は5割未満	実績値 (増分) [単位] -672 人 計測年月 平成 29 年 4 月 目標値に対する達成度合い ## % ④目標値の達成 は5割未満	実績値 (増分) [単位] 11 人 計測年月 平成 30 年 1 月 目標値に対する達成度合い 48 % ④目標値の達成 は5割未満	実績値 (増分) [単位]	実績値 (増分) [単位]
		<凡例: 選択肢> ① 目標値を達成 ② 目標値の7割以上達成 ③ 目標値の5割以上達成 ④ 目標値の達成は5割未満				
	ス. 平成29年度の事業 終了時点の実績値累計	実績値 (増分) [単位] -27879 人 目標値に対する達成度合い ## % ④目標値の達成 は5割未満	実績値 (増分) [単位] -579 人 目標値に対する達成度合い ## % ④目標値の達成 は5割未満	実績値 (増分) [単位] 100 人 目標値に対する達成度合い 303 % ①目標値を達成	実績値 (増分) [単位]	実績値 (増分) [単位]
セ. 備考欄	実績値や年月を、半角数字で記入することが出来ない、その他上表に記載困難な場合には、以下備考欄をご活用ください。					

(目標値未達の場合のみ) 実績値累計の 目標未達理由	ソ、最も影響の	→	①外的要因	①外的要因					
	タ、次に影響の大きい理由	→	③その他	③その他					
	<凡例：選択肢> ① 外的要因 ② 計画不適切 ③ その他 ④ 不明 ⑤ 事業未実施								
「③その他」を選択した場合は、その内容をご記入ください。 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">直売所のリニューアル工事中により、売場面積及び駐車スペースの確保が困難となり、売上、客数が減少した。</td> <td style="width: 50%;">直売所のリニューアル工事中により、売場面積及び駐車スペースの確保が困難となり、客数が減少し、賑わいの創出に至らなかった。</td> </tr> </table>								直売所のリニューアル工事中により、売場面積及び駐車スペースの確保が困難となり、売上、客数が減少した。	直売所のリニューアル工事中により、売場面積及び駐車スペースの確保が困難となり、客数が減少し、賑わいの創出に至らなかった。
直売所のリニューアル工事中により、売場面積及び駐車スペースの確保が困難となり、売上、客数が減少した。	直売所のリニューアル工事中により、売場面積及び駐車スペースの確保が困難となり、客数が減少し、賑わいの創出に至らなかった。								

2-1. ご記入いただいたKPIの内、本事業において代表的なKPIと考えるKPIをお選びください。(最大3つまで) ※上記左から、KPI 1、KPI 2、KPI 3、の順で並んでいます。

代表的KPI		
KPI 1	KPI 2	KPI 3

○交付金事業の地方創生への効果 【全員】

3. 設問2の「S」目標値に対する達成度合いの回答結果を踏まえて総合的に判断の上で、本交付金事業の地方創生への効果について、お聞かせください。

事業効果
② 地方創生に相当程度効果があった

<凡例：選択肢>

① 地方創生に非常に効果的であった	例：全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
② 地方創生に相当程度効果があった	例：一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
③ 地方創生に効果があった	例：KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
④ 地方創生に対して効果がなかった	例：KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言えないような場合

C. 自立性担保の進捗

○自立化の進捗状況

4. 実施計画をご覧ください。

4-1. 設問4で「あり(①もしくは②)」と回答いただいた方のみ、お答えください。

実施計画に記載された自立化の見込み
①あり(自主財源による自立)
注) 横展開タイプ、隘路打開タイプでは、選択肢②における「地方公共団体の一般財源による負担」
<凡例：選択肢>
① あり(自主財源による自立)
② あり(地方公共団体の一般財源による負担)
③ なし

平成29年度事業を踏まえた自立化の進捗
③見込みを下回って自主財源等確保
<凡例：選択肢>
① 見込みを上回って自主財源等確保
② 見込みと自主財源等確保
③ 見込みを下回って自主財源等確保
④ 自主財源等確保の見込みはない

○自立化の課題 【全員】

5. 平成29年度事業を踏まえて、取組みの自立化に向けて課題と感じていらっしゃることを、可能な範囲で具体的に記入ください。

(観念の例：収入・財源の確保、ビジネスモデル、事業推進体制、技術・ノウハウを有する人材など)

--

D. 事業の実施状況

○事業実施時に留意した項目 【全員】

6. 貴団体が本事業を実施するにあたって留意した項目について、お聞かせください。(○はい/×はいい)

注) 各項目の詳細は、内閣府から公表している「地方創生事業実施のためのガイドライン」総論-III.事業化プロセス編に記載していますので、必要に応じてご参照ください。

【事業アイデア・事業手法の検討段階】

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> ア. 地域住民や利害関係者との話し合いを通じて課題やニーズを明確化している | <input type="checkbox"/> オ. 異なる分野の政策を組み合わせた事業とするため、団体内の複数部署や様々な分野の民間企業と連携している |
| <input type="checkbox"/> イ. 定量的・客観的な分析を通じて地域の実態やニーズを捉えている | <input type="checkbox"/> カ. スケールメリットや人材・ノウハウ融通のため、複数の地域間で連携している |
| <input type="checkbox"/> ウ. 地域の特色ある資源や強みを活用している | <input type="checkbox"/> キ. 事業実施体制の構築において、地域の企業・団体等の既存組織・ネットワークを活用している |
| <input type="checkbox"/> エ. 事業手法の検討に外部人材・知見を活用している | <input type="checkbox"/> ク. 関係者の役割・責任について明確化している |

【事業の具体化段階】

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> ケ. 資金調達の方法や事業採算性など事業が継続性をもって自走していくことのできるプロセスを明確化している | <input type="checkbox"/> サ. 事業終了までの詳細な工程計画(四半期単位、月単位等)を策定している |
| <input type="checkbox"/> コ. 経営視点からの検証のため、事業実施経験のある人材を活用している、または知見ある外部専門家から助言を受けている | <input checked="" type="checkbox"/> シ. 事業と直接性があり、客観的な成果を表すKPIを選定し、妥当な水準の目標値を設定している |

【事業の実施・継続段階】

- | | | | | | | |
|---|---|---|---------|------------|-----------|-----------|
| <input type="checkbox"/> ス. 事業実施主体間で定期的にコミュニケーションを行っている | (セ. 左記コミュニケーションの頻度 <input type="checkbox"/> ②四半期に1回程度) | <凡例：選択肢> (セ、タ共通)
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr><td>① 月1回以上</td></tr> <tr><td>② 四半期に1回程度</td></tr> <tr><td>③ 半期に1回程度</td></tr> <tr><td>④ 1年に1回程度</td></tr> </table> | ① 月1回以上 | ② 四半期に1回程度 | ③ 半期に1回程度 | ④ 1年に1回程度 |
| ① 月1回以上 | | | | | | |
| ② 四半期に1回程度 | | | | | | |
| ③ 半期に1回程度 | | | | | | |
| ④ 1年に1回程度 | | | | | | |
| <input type="checkbox"/> ソ. KPIの進捗について定期的に管理している | (タ. 左記進捗管理の頻度 <input type="checkbox"/> ④1年に1回程度) | | | | | |
| <input type="checkbox"/> チ. 担い手となるキーパーソンや、事業を継続的に進めていくマンパワーを確保している | <input type="checkbox"/> テ. 地域住民・事業者や利害関係者が事業の推進や改善に参加できる仕組みをつくっている | | | | | |
| <input type="checkbox"/> ツ. 事業の目的・目標や生じつつある効果等の現状、事業がもたらすメリットについて情報発信し、事業実施に対する納得感を醸成している | | | | | | |

【事業の評価・改善段階】

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> ト. 外部組織や議会等により事業の効果を多角的に評価検証している | <input type="checkbox"/> ニ. 事業の評価を踏まえて対応策を決定し、実行に移している |
| <input type="checkbox"/> ナ. KPIの達成状況を定期的に確認し、未達成の場合はその要因を分析している | <input type="checkbox"/> ノ. 事業の改善方針について次年度以降の事業計画に反映している |

E. 効果検証

○議会による効果検証 【全員】

7. 議会による効果検証の有無、時期について、お聞かせください。

議会による効果検証の有無、議会による効果検証の時期

<凡例：選択肢>

- ① 実施した ② 実施予定 ③ 実施しない(予定)

○外部組織による効果検証 【全員】

8. 外部組織による効果検証の時期、本事業の評価について、お聞かせください。

外部組織による効果検証の有無、外部組織による効果検証の時期、外部組織による本事業の評価

<凡例：選択肢>

- ① 地方版総合戦略のKPI達成に有効であった、との意見 ② 地方版総合戦略のKPI達成に有効とは言えない、との意見

○事業実施状況の見直し

9. 設問7または設問8で「①実施した」と回答いただいた方のみ、お答えください。

議会または外部組織による効果検証を通じた、事業の実施状況の見直しについて、お聞かせください。

<凡例：選択肢>

効果検証を通じた事業見直しの状況

- ① 効果検証において「改善が必要」との指摘はなく、事業は適切に実施されている ② 効果検証において「改善が必要」との指摘はあったものの、適切な改善が図られている ③ 効果検証において「改善が必要」との指摘はあったが、現状では適切な改善が図られていない

F. 事業を進める中での課題・苦勞、及びそれに対する取組の修正・改善

10. 平成29年度の事業を進める中での課題・苦勞について、お聞かせください。 【全員】

事業を進める中での課題・苦勞の有無、②課題・苦勞はほとんどなかった

<凡例：選択肢>

- ① 課題・苦勞があった ② 課題・苦勞はほとんどなかった ③ 課題・苦勞は全くなかった

10-1. 設問10で「①課題・苦勞があった」と回答いただいた方のみ、お答えください。以下の中から、特に苦勞したことを最大で3つまで、お聞かせください。

特に苦勞したこと(3つまで)

<凡例：選択肢>

- ① 事業推進体制の検討 ② 事業経営や技術/ノウハウを有する人材の確保・育成 ③ ビジネスモデル・資金繰りの検討 ④ 事業実施場所(施設・設備)の検討 ⑤ 規制・許認可への対応 ⑥ 庁内・組織内(幹部、原課、財政課等)との調整・合意形成 ⑦ 庁外・組織外(地域内・地域外の事業者、住民)との調整・合意形成 ⑧ 連携先の地方公共団体との調整・合意形成 ⑨ その他(例：予期せぬ外部環境変化が起こった等)

※⑧については、広域事業の場合のみ、選択ください。

「⑨その他」を選択した場合は、その内容を具体的に記入ください。

10-2. 設問10-1を回答いただいた方のみ、お答えください。設問10-1の課題・苦勞に対応して、取組を進めながら修正・改善を行われた場合、その内容について、可能な範囲で具体的に記入ください。

注) 事業実施計画の申請時点での想定点との相違点に対し、取組の途中(平成29年度内)において、修正・改善により取組を進めさせた点をお聞かせください。

11. 平成30年度以降も継続して事業を実施する団体のみ、お答えください。

平成29年度の事業実施・成果を踏まえて、平成30年度以降における取組の修正・改善について、可能な範囲で具体的に記入ください。

注) 事業実施計画の申請時点での対比で、平成29年度事業成果を踏まえたPDCAによる事業改善の観点から、取組を修正・改善させる点をお聞かせください。

G. 今後の事業展開方針

12. 本事業の今後の方針について、お聞かせください。 【全員】

今後の方針 ①事業の継続(計画通りに事業を継続する)

<凡例：選択肢>

- ① 事業の継続(計画通りに事業を継続する) ② 事業の発展(事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる) ③ 事業の改善(事業の効果が不十分であったことから見直し(改善)を行う(または、行った)) ④ 事業の中止(継続的な事業実施を予定していたが中止する(または、した)) ⑤ 事業の終了(当初予定通り事業を終了する(または、した))

II. その他

○事例の自己推薦 【全員】

13. 「地方創生関係交付金の活用事例集」の掲載事例として、本事業を取り上げるべきかについて、理由とともにお聞かせください。

<凡例：選択肢>

事例の自己推薦、⑤特に推薦しない

- ① 計画を上回る大きな効果上げた事業として推薦する ② 課題解決のための取組内容が他団体の参考となるため推薦する ③ 課題や苦勞が他団体への示唆に富むため推薦する ④ その他の理由により推薦する ⑤ 特に推薦しない

○他の地方創生関係交付金の活用状況 【全員】

14. 平成28年または平成29年当初・推進交付金を活用した本事業と密接な関係性を有する事業として、その他の地方創生関係交付金を活用していますか。(〇はいくつでも)

- 平成26年補正・地方創生先行型交付金を活用した。 ○平成27年補正・地方加速化交付金を活用した。 ○平成28年補正・地方創生拠点整備交付金を活用した。 ○平成29年補正・地方創生拠点整備交付金を活用している。 ○平成30年当初・地方創生推進交付金を活用している。 ○平成28年または平成29年当初・推進交付金以外に地方創生関係交付金活用実績はない。

○ガイドライン、事例集の活用状況

15. 内閣府から公表している「地方創生事業実施のためのガイドライン」や「地方創生関係交付金の活用事例集」の活用状況について、お聞かせください。 【全員】

注) 本事業への活用に限らず、貴団体における地方創生事業全体に関する認識としてお答えください。

ガイドライン、事例集の活用状況 ①活用している

<凡例：選択肢>

- ① 活用している ② 活用していない ③ ガイドライン、事例集の存在を知らなかった

15-1. 設問15で「①活用している」と回答いただいた方のみ、お答えください。以下の中から特に活用した項目を、お聞かせください。(〇はいくつでも)

- 先駆性要素 ○KPIの設定 ○事業化プロセス(総論) ○事業化プロセス(各論) ○事例集

15-2. 設問15で「①活用している」と回答いただいた方のみ、お答えください。ガイドライン、事例集の活用方法について、お聞かせください。(〇はいくつでも)

- 地方創生交付金事業のテーマ探しや計画策定に当たり参照している ○地方創生交付金事業の実施・運営に当たり参照している ○地方創生交付金事業以外の事業のテーマ探しや計画策定に当たり参照している ○地方創生交付金事業以外の事業の実施・運営に当たり参照している

○ガイドライン、事例集に関する意見・要望 【全員】

16. 内閣府から公表している「地方創生事業実施のためのガイドライン」や「地方創生関係交付金の活用事例集」についてのご意見・ご要望がありましたら、お聞かせください。

意見・要望記入欄